



第3期 大東市環境基本計画 概要版

令和8(2026)年3月 大東市

第3期 大東市環境基本計画 概要版

快適でうるおいのある豊かな環境を
創り、守り、育て、伝えていく まち だいとう

発行：大東市 市民生活部 環境室

〒574-8555 大東市谷川一丁目1番1号

Tel 072-872-2181(代表) Fax 072-870-9608

E-mail kankyo@city.daito.lg.jp

印刷物番号

7-104

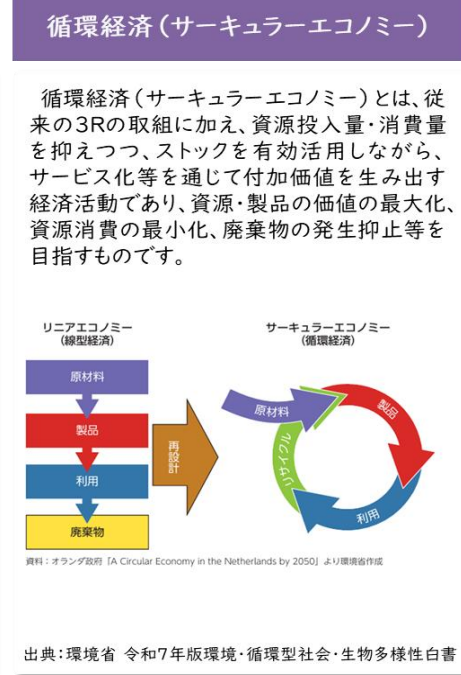
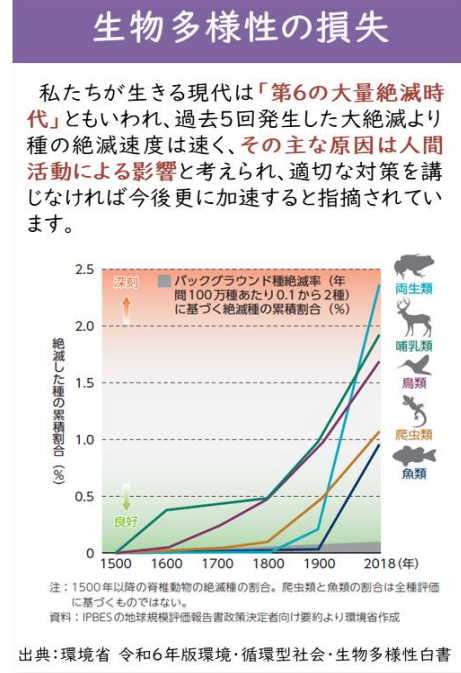
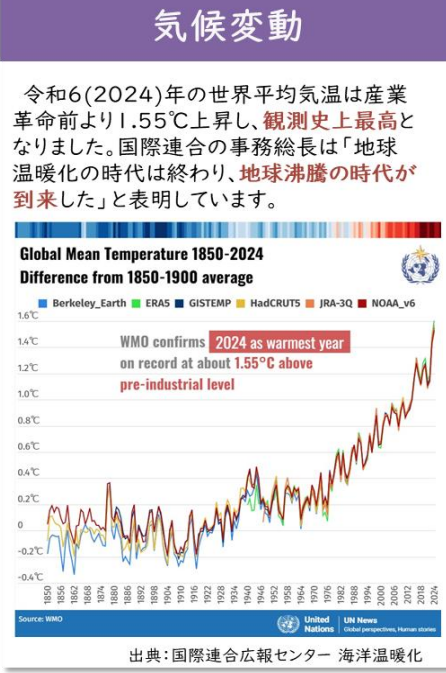
第3期大東市環境基本計画 概要版

① 計画策定の背景 (本編3~9ページ)

近年、気候変動による猛暑や豪雨などの異常気象が頻発し、生活や地域経済に大きな影響を及ぼしており、温室効果ガスの排出削減等の緩和策と適応策の強化が急務となっています。

また、生物多様性の損失が進行し、地域の自然環境の保全・再生が重要な課題となっており、さらに、大気汚染や水質汚濁、廃棄物などの身近な環境問題にも継続的な対応が求められています。

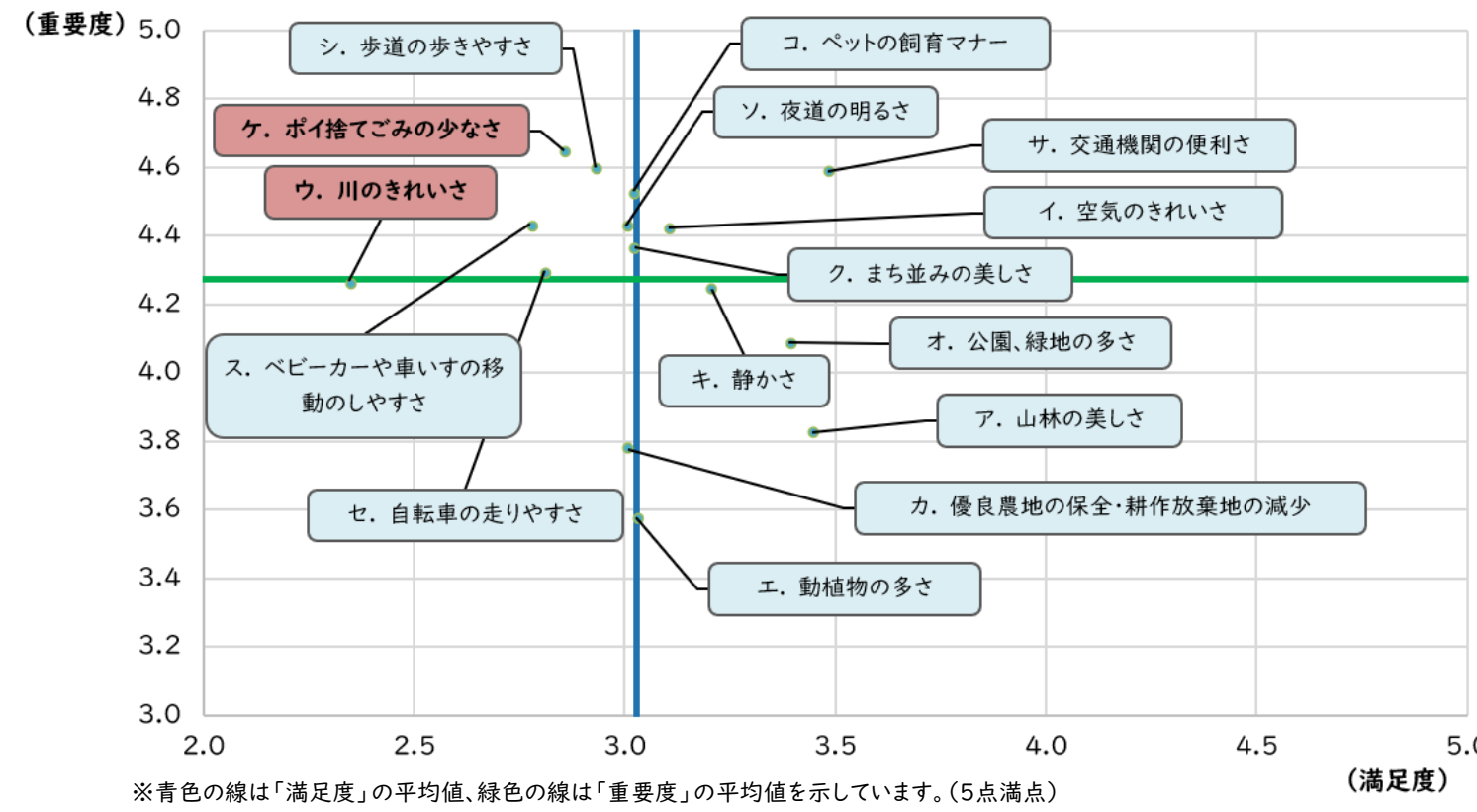
一方で、資源を循環的に活用し、環境と経済の両立を図る「サーキュラーエコノミー(循環経済)」への転換が進められています。本市においても、地域の特性を生かし、持続可能な社会の実現に向けた取組を推進するため、これらの背景を踏まえた計画内容とします。



③ アンケート調査結果(本編19~22ページ)

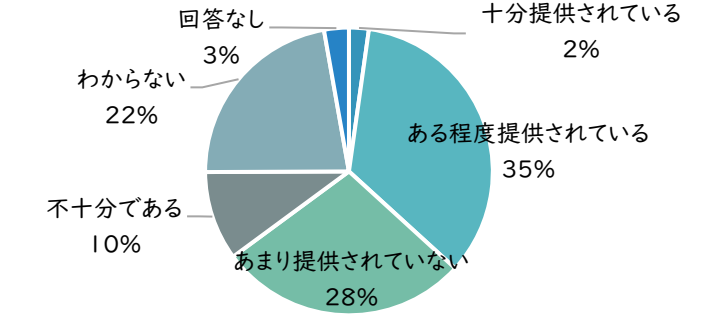
・市民アンケート

市の環境に関する「満足度」と「重要度」について聴取したところ、「川のきれいさ」が最も満足度が低い項目として示されました。また、「ポイ捨てごみの少なさ」は市民にとって最も重要度が高い項目として示されています。これらの結果から、地域の環境美化に向けた取組を強化することが求められていると考えられます。



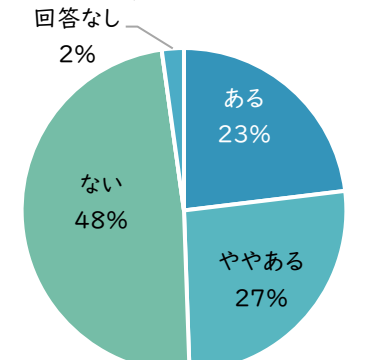
・市民アンケート

市から発信される環境の情報について、「あまり提供されていない」、「不十分である」、「わからない」の回答は合計で60%となり、情報が十分に行き届いていない可能性があります。今後は、環境に関する取組や学びの機会を分かりやすく発信し、関心を高めていくことが重要です。

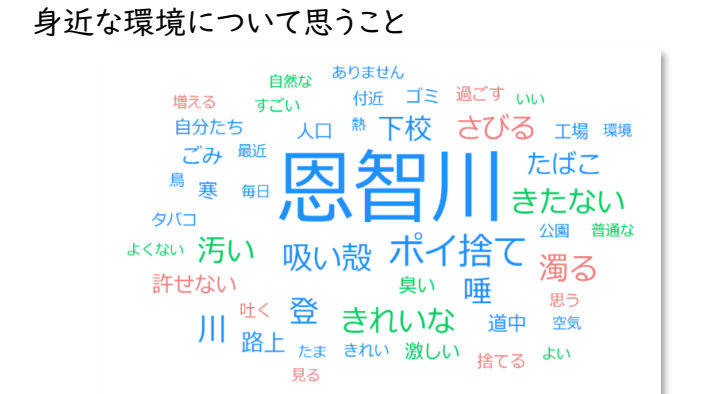


・事業者アンケート

事業活動の中で、脱炭素に取り組む必要性を感じる場面はあるかという質問では、半数の事業者が脱炭素の必要性を何らかの形で感じていることがわかりました。本市としても、温暖化対策を事業者が行動に移しやすい環境を整えていく必要があります。



・中学生アンケート



※大容量テキストマイニングに質問の全回答を入力し、スコア順で表示させたもの。「一般的な文書でよく出る単語は、重要ではないため、重み付けを軽くする」、一方「一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語は重視する」仕組みを取り入れている。ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (https://textmining.userlocal.jp/)

② 計画の期間、位置づけ、対象(本編12~14ページ)

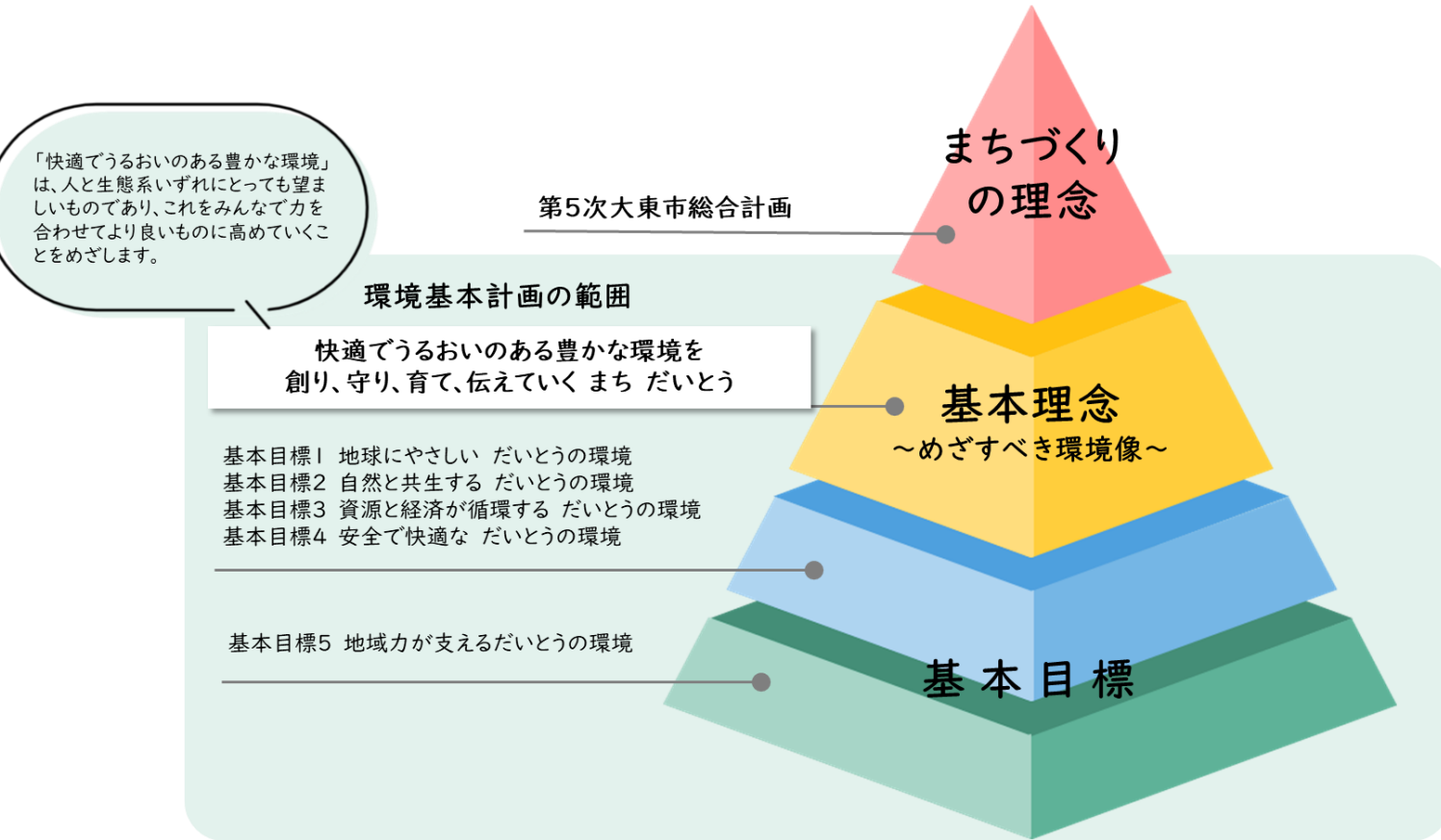
- ### 期間
- 令和8(2026)年度~令和17(2035)年度の10年間
 - 毎年、取組の点検・評価を実施。必要に応じて計画の見直しを図ります。

- ### 位置づけ
- 「大東市環境基本条例」に基づき、本市の環境保全・創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。また、「大東市総合計画」に掲げた理念や政策の展開方針について、環境面から具体化するものです。

- ### 計画の対象
- 本計画の対象となる「環境」とは、「大東市環境基本条例」に定義された以下の4つの環境とします。
「生活環境、快適環境、自然環境、地球環境」

④ 計画の基本理念と目標 (本編25ページ)

本計画では、基本理念(めざすべき環境像)、ひいては第5次大東市総合計画に掲げるまちづくりの理念の実現に向けて、5つの基本目標を定め、施策を推進することとします。4つの基本目標の基盤となる横断的施策として、「地域力が支える だいたうの環境」を定めます。



⑤ 施策体系 (本編26ページ)

基本目標	施策	5 地域力が支える だいたうの環境	重点 プロジェクト
1 地球にやさしい だいたうの環境	省エネルギーの推進	※基本目標1~4 を横断する施策	1 大東市から 地球温暖化 を防ぐプロ ジェクト
	再生可能エネルギーの導入促進		
	脱炭素に資する基盤の整備		
	気候変動の影響への適応		
2 自然と共生する だいたうの環境	自然環境の活用	環境学習・環境教育 人・つながりづくり 環境に関する情報の提供	2 「働きかけ」 と「環境学 習」の機会を 多様化する プロジェクト
	生物多様性の保全		
	まちなかの緑化		
	都市型農業の振興		
3 資源と経済が循環 するだいたうの環境	5Rの促進	環境に関する情報の提供	3 川とまちを きれいにす るプロ ジェクト
	適正なごみ処理システムの構築		
4 安全で快適な だいたうの環境	暮らしの場における環境問題の未然の防止	環境に関する情報の提供	3 川とまちを きれいにす るプロ ジェクト
	環境保全対策の推進		

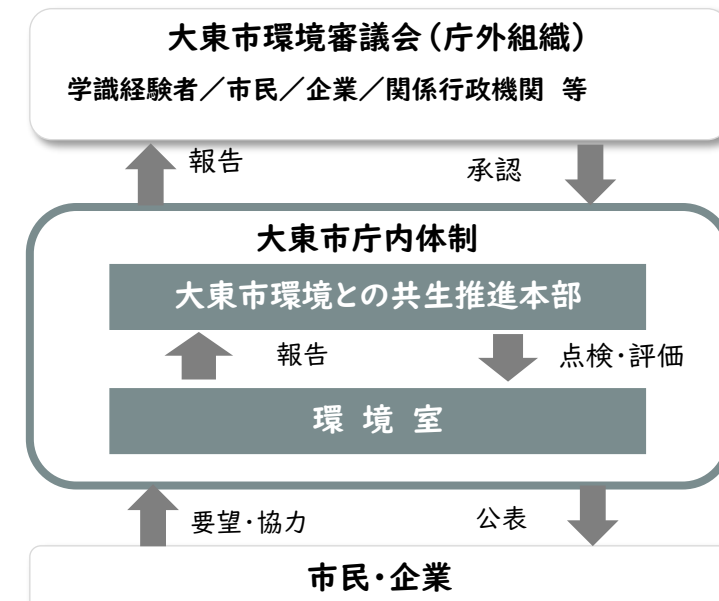
快適でうるおいのある豊かな環境を創り、守り、育て、伝えていくまち だいたう

⑥ 施策の展開 (本編28~41ページ)

基本目標	施策	具体的な取組
1 地球にやさしい だいたうの環境	省エネルギーの推進	建築物の省エネルギー化の推進/デコ活の推進/エネルギーの見える化の支援/脱炭素経営への移行促進
	再生可能エネルギーの導入促進	再生可能エネルギー設備の導入促進/再エネ電力への切り替え促進
	脱炭素に資する基盤の整備	持続可能な交通環境の実現/吸収源対策
	気候変動の影響への適応	気候変動の影響への適応
2 自然と共生する だいたうの環境	自然環境の活用	里山・水辺等の整備・活用
	生物多様性の保全	外来生物への対策/生物多様性に関する普及啓発
	まちなかの緑化	魅力ある公園・緑地づくりの推進/緑のネットワークの整備・充実/地域緑化運動の推進、事業者との連携/保護樹林等の保全と啓発/緑化相談・指導の充実/計画的な“みどり”資源の保全
3 資源と経済が循環 するだいたうの環境	都市型農業の振興	都市型農業の振興
	5Rの促進	ごみ発生抑制の取組の推進 (Reduce:発生抑制、Repair:修理)/食品ロス対策 (Refuse:断る、Reduce:発生抑制)/資源活用機会・場の充実 (Reuse:再使用、Recycle:再生利用)/プラスチックごみ対策 (Reduce:発生抑制、Recycle:再生利用)
4 安全で快適な だいたうの環境	適正なごみ処理システムの構築	家庭ごみ・事業所ごみの適正処理の推進/ごみ処理体制の強化/持続可能なごみ処理システムの構築
	暮らしの場における環境問題の未然の防止	環境監視の継続的な実施/公害防止協定の締結・運用/環境創造誘導施策の導入/環境悪化の防止
5 地域力が支える だいたうの環境	環境保全対策の推進	河川の美化・水質浄化の充実/環境影響評価の推進/良好な環境の創出
	環境学習・環境教育	学校及び市民の環境学習機会の拡充
	人・つながりづくり	環境の保全・創造を担う人材の養成と普及/団体・グループの把握・紹介/多様な主体との協働の推進
	環境に関する情報の提供	環境に関する各種情報の収集・整理・発信

⑦ 計画の推進体制 (本編49ページ)

本計画を推進していくために、市民、市内民間企業勤務者、学識経験者及び関係行政機関の職員からなる「大東市環境審議会」のもとで毎年度チェックを受けながら推進を図ります。また、市の「大東市環境との共生推進本部」における内部評価も行います。

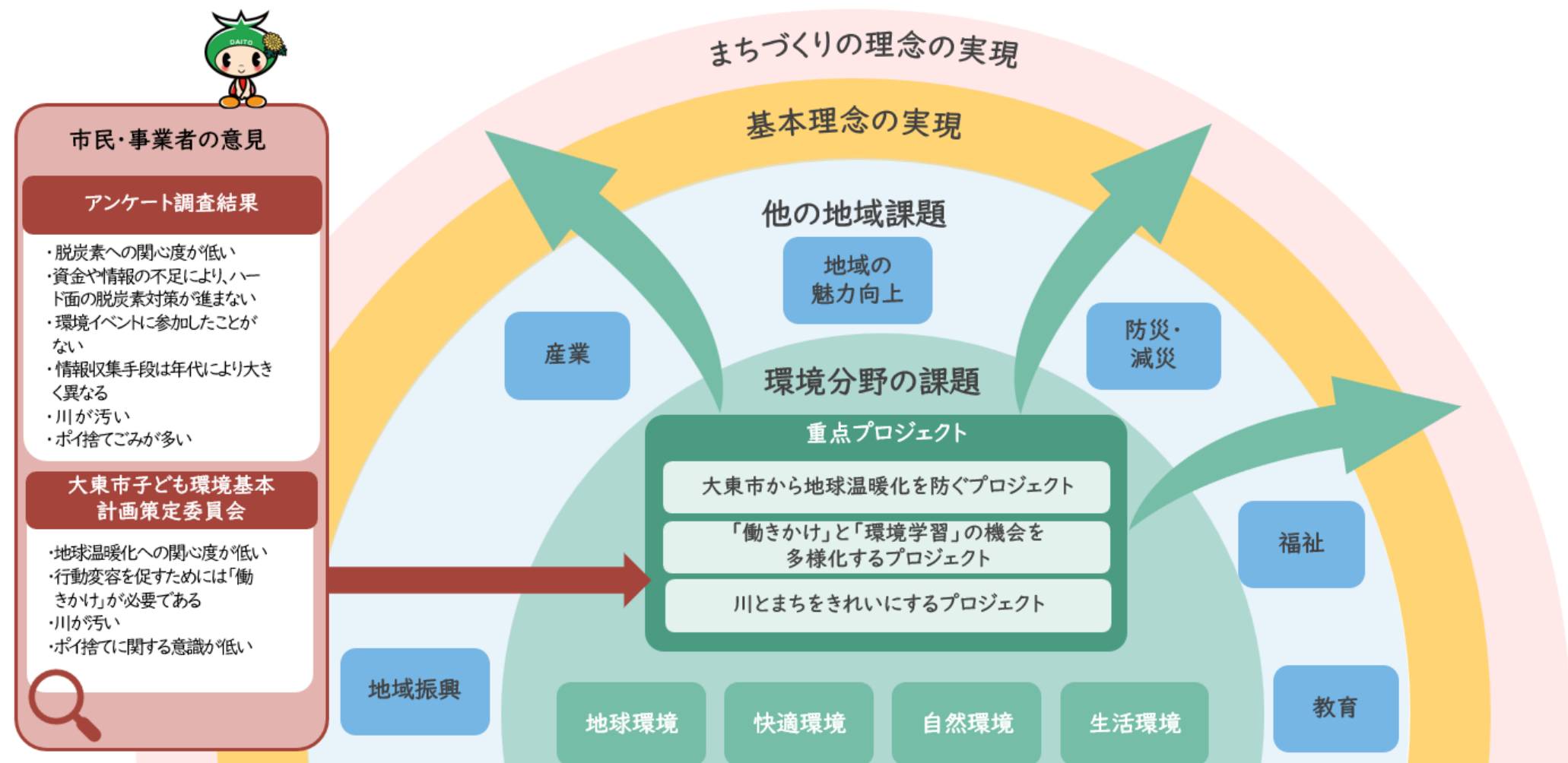


⑧ 重点プロジェクトと指標 (本編43~47ページ)

めざすべき環境像の実現のため、各基本目標の施策をけん引し、重点的に取り組むべきプロジェクトを**重点プロジェクト**として位置付けます。

設定にあたっては、アンケート調査結果、中高生ワークショップにより集約した市民の意見、環境分野以外の地域課題の同時解決に資するという点を重視しました。

また、重点プロジェクトの進捗については、「市民にとってよりよい環境になっているのか」を重視するため、毎年行うアンケート調査の結果により確認するものとします。



市民・事業者の意見

アンケート調査結果

- ・脱炭素への関心度が低い
- ・資金や情報の不足により、ハード面の脱炭素対策が進まない
- ・環境イベントに参加したことがない
- ・情報収集手段は年代により大きく異なる
- ・川が汚い
- ・ポイ捨てごみが多い

大東市子ども環境基本計画策定委員会

- ・地球温暖化への関心度が低い
- ・行動変容を促すためには「働きかけ」が必要である
- ・川が汚い
- ・ポイ捨てに関する意識が低い

重点プロジェクト①
大東市から地球温暖化を防ぐプロジェクト

市民・事業者が自分ごととして地球温暖化について考え、主体的に脱炭素に取り組む

中高生と連携した取組内容

学校教育における地球温暖化対策の普及啓発活動

- ・学校における脱炭素に関する学習機会の確保
- ・CO₂排出量チェックシートの作成と運用

大東市役所における脱炭素の率先行動

- ・公共施設等の省エネ化・再エネ電力導入等による脱炭素化
- ・職員の省エネ行動の徹底

デコ活の推進

- ・省エネ性能にすぐれた家電製品やOA機器の情報発信や買換え支援
- ・省エネ住宅への移行促進

脱炭素経営の移行促進

- ・中小企業セミナーなどの講習会や研修の開催
- ・太陽光発電システム、再エネオークションなどによる再エネ導入の他、事業所へのESCO事業啓発
- ・国等の補助活用や助成制度の情報提供

指標	現状値	目標年度	内容
自分ごととして地球温暖化について考え、行動している人の割合	—	2030年 60% 2035年 80%	「行動している」の割合

重点プロジェクト②
「働きかけ」と「環境学習」の機会を多様化するプロジェクト

多様な主体が多様な手段で情報発信し、多様な環境学習や体験の場が提供されている

「働きかけ」の多様化

- ・ホームページ、SNS (フェイスブック、X、Instagram、LINEなど) の活用
- ・行政窓口、学校等におけるチラシ、ポスターの掲示・配布
- ・広報「だいたう」の活用
- ・学校、団体、企業との連携による情報発信者の多様化

多様な主体の参画による環境学習機会の確保

- ・事業者、団体、大学等とのネットワーク構築
- ・各主体が相互に連携し、協働学習体制の構築

多様な環境学習・体験の場の提供

- ・学生、親子世代、シニア世代等の年齢層に応じた環境学習・体験プログラムの検討
- ・生物多様性、地球温暖化、ごみ問題等、様々な種類の環境学習・体験プログラムの検討

指標	現状値	目標年度	内容
市から発信される環境の情報への満足度	37%	2030年 60% 2035年 80%	「提供されている」の割合

重点プロジェクト③
川とまちをきれいにするプロジェクト

川・まちの美化が市民に実感され、大東市が「きれいなまち」として市内外で認識される

中高生と連携した取組内容

ポイ捨て、ごみ量の削減対策

- ・学校教育におけるごみ問題・ポイ捨てについて考える時間の確保
- ・ポスターやSNSを活用した普及啓発活動の実施
- ・ごみ拾いやごみの分別及びごみ発生抑制に関するイベントの開催や取組の推進
- ・川の周辺や人が集まる場所へ人々の行動変容(ナッジ)につながるような工夫したごみ箱の設置

恩智川クリーン・リバープロジェクトの推進等

- ・河川での美化活動
- ・水辺を活用したイベント・学習会
- ・啓発活動・ワークショップ
- ・プロジェクトのPR及び参画促進

浮遊ごみ対策

- ・河川の浮遊ごみの回収の充実
- ・浮遊ごみ清掃活動のPR、市民等への啓発

指標	現状値	目標年度	内容
「浮遊ごみの少なさ」への満足度	11%	2030年 30% 2035年 50%	「満足」の割合
「ポイ捨てごみの少なさ」への満足度	27%	2030年 40% 2035年 60%	「満足」の割合

具体的な取組

具体的な取組

進捗指標

進捗指標